

一人ひとりの声から 板橋の未来をつくる



[クイズ]
ハートは
いくつあるでしょう?
こたえは中面右下へ

地域リビングからはじまる物語 第3章

「ただいまー!」「おかえり〜!」

夕方5時、「地域リビング」のキッチンは大忙し。
今日のごはん当番は、小学生のたけしくん。
得意のグラタン作って、地域の人々と食べるんだって。
おじいちゃん、おばあちゃん、大学生がサポートしている。

夜7時半、仕事を終え、子どもを迎えに来た方に、
『お疲れ様♪これ持って行って食べて。また明日ね』とボランティアさん。

なんだか、ほっこりして、ひとりで生きている気がしない。

2011年に「地域の交流拠点を生活圏内に」と一大政策を掲げてから8年。
2013年には、私自身が常設の「地域リビング」を開設。
このような風景が日常化し、多くの勇気と気づきを得ています。

実践を元に、議会でこども食堂や高齢者の居場所の支援制度を提案し実現。
街中に居場所が広がり、それぞれに物語が生まれています。

第3章では、さらなる政策実現に向け、大学院に通い研究してきた成果を活かし、
まちの相談役がいる常設の共生型交流拠点と訪問支援の制度化へ。
今まで、届かなかった人たちにも目を向け、地域づくりを進めます。

だれもがあらのまま、堂々と生きられるまちへ。
「一人ひとりの声から描く板橋の未来」をご覧ください。



板橋区議会議員(無所属) 34歳

いのうえあつこ
井上温子

- 8年間、唯一、政党や会派にしばられず議員活動。
- 地域活動歴13年。自ら常設の居場所を開設し、6年間運営。
- 政策実現へ、立教大学大学院に夜間通い研究。2年で修了。

1 一人暮らしも安心 「ちょっと困った…」を受け止められる地域

活動報告

訪問型サービスBの制度についての勉強会実施(2018年8月)。その後、担当職員が制度化に向けたヒアリングを行うところまで動き出しました。2020年度制度化を目指し、動いています。

民生委員さんの見守り活動は、一人1141人受け持ち年々大変に。他の介護予防事業等と連携し、日常から見守りができている人については訪問を減らし、支援が必要な人に時間をかけられるよう提案。前向きな答弁を得ています。(2019年2月健康福祉委員会)

全区に協議体が設置されました。設置に向け、勉強会から始めることなど、あるべき姿について提案。活かされてきました。2011年から地域に予算と決定権をと政策を掲げてきたので期待大の取り組みです。しかし、制度についての学習や情報提供が不十分で、行政主導になっただけの場合も、問題点を指摘してきました。

政策

- 自宅での生活を充実させるために、住民主体の訪問型サービスBを制度化し、介護保険等で対応できない訪問支援を行なっている地域活動を補助。
- 地域包括支援センターを、子どもや障がい者、だれでも相談OKな共生型支援センターへ。
- 民生委員さんの活動サポート。
- 保育士・介護士人材の養成や待遇改善による人材確保。
- 生活支援の担い手養成講座の拡充。
- 地域の支え合い・助け合いを促進していく「協議体」は、現場の活動を重視し、ボトムアップで。

2 すべての子どもたちに笑顔と希望を

- 子どもの声を政策に取り入れるため、こども会議の実施を度々提案してきました。区は検討段階です。
 - 子どもの貧困対策調査特別委員会(2018年度)にて、提言に残すことができました。(提言に入れるために、委員会において全会派の賛同を得る必要があります)
 - 児童館やあいキッズ、公園等、子どもがルールを決めたり、政策提案。小・中・高校生の声が届く行政運営を。
 - 学校でも朝食や夕食を。孤食を減らそう。
 - 家庭の経済状況に関わらず、子どもたちが民間の習い事やクラブなど、学習機会を選択できるクーポン事業の実施。
 - 離婚後、養育費を受け取ったことがない人は板橋区で約7割。ひとり親家庭支援として、明石市を参考に養育費保証制度の実施を。
 - 学校支援地域本部の有給コーディネーターの活用促進。地域資源をつなげる役割を担い、子どもの可能性を広げよう。
 - スクールソーシャルワーカー増員と正規職員を。
 - 外国人指導講師(ALT)と担任や英語科教員を連携しやすいよう委託の実施をやめ雇用環境改善。
 - 板橋区に児童相談所と一時保護施設が設置される予定。子どもも保護者も「助けて」と言える仕組み作りを。要保護児童対策協議会に守秘義務を課した上で、関連NPO等をメンバーに。日常性のあるサポートの充実を。
 - 短期里親や里親の普及。
 - 認可・認証保育所・一時保育など、全保育サービスの1日あたりの保険料格差をゼロに。
- ALTの委託化は、小学校の担任や中学校の英語科の先生からALTの先生に指示や打ち合わせができ、良質な授業実施が不可能な問題点を指摘。改善を引き続き求めています。
- 認証保育所利用者へ所得階層別の保育料補助実施を求め、実現。(2011年は補助額一律1万円が現在は最大3.5万円)

3 障がいがあっても地域で暮らし続けられる

- 平日の昼中、身体・精神障がい者、難病患者の約4割が自宅で、知的障がい者の4割が作業所等で過ごしています。日中夕方以降の街中の居場所や移動支援の拡充を。
 - 社会的障壁をなくす。
 - 重症心身障がい者の1対1支援促進で1人ひとりにあった生活プランを。重度訪問の担い手を増やし、外出しやすい環境に。
 - 子どもも大人も医療的ケアを理由に断られない施策を。
 - だれでもトイレに大人用ベッド設置促進。
 - 街中の休憩スペースの拡充
 - 来年度制定される手話言語条例を実行性あるものに。盲ろう者たちの声も忘れません。
- だれでも参加できる居場所づくりを实践・研究・提案。若年性認知症、重症心身障がい、精神障がい、難聴、ろう者など、一人ひとりの出会いから必要な施策を提案してきました。
- 八ヶ岳荘のグランピングエリアのバリアフリー化の必要性を指摘し実現。(2017年度文教児童委員会)
- 声が出せない方の「声」を本人の表情や保護者の方々の話から受け取り提案しています。
- 施設増設の度、設置を要望し実現。2011年7月から2018年15台に増。指摘される前に設置を計画するよう要望。
- 「新中央図書館では休憩スペースを設置」実現へ。「福祉団体の休憩スペースを周知」「他施設については検討」との答弁でした。(2016年11月一般質問)
- 幼児教育での手話導入や、行政職員の手話習得を提案。(2018年度健康福祉委員会)

8年間の活動報告と板橋の未来

一大政策と8本の柱

Pick Up!

私は、2011年から「地域の交流拠点を生活圏内に」を一大政策として活動してきました。また、居場所やまちの中で出会った人たちの声から、現代社会に必要な政策を8本の柱にまとめました。ぜひ、ご覧いただき、みなさんの声も聞かせてください。

一大政策 みんなの近所にみんなが集える地域の交流拠点を設置し、暮らしをシェア

現在、世帯構造は大きく変わっています。生涯未婚率や高齢化率の上昇で、単身世帯と夫婦のみ世帯を足すと、全世帯の50%を超えています。また、核家族化が進み、子育てや介護も、孤立しやすい状況です。そのような中、私は、地域で食事づくりや子育て、介護をシェアできる地域の交流拠点が必要と考え、2011年から、小学校区52カ所、理想はコンビニの数ほど交流拠点を増やすことを目標にしました。まずは実践。地域の人たちと世代や国籍、障がいの有無をこえて集える地域の交流拠点の必要性について話し合い、5年の準備期間を経て、2013年に「地域リビング」を開設し、現在7年目となります。また、区内で交流拠点を運営する人たちとのネットワークを立ち上げ、情報交換をしたり、様々なテーマの勉強会を開催してきました。



交流拠点の機能と補助について

① 交流拠点の機能ってなあに？

① 子育て・家事的シェアの場、② 高齢者の暮らしの場、活躍の場、③ 障がい者の働く場や交流拠点、④ 人と人をつなぎ新たなコミュニティを生み出す場、⑤ 仲間ができる地域で遊ぶ=地域経済活性化、⑥ イノベーションの発生拠点、⑦ 自治の拠点、⑧ 助け合い・支え合いの拠点などなど…。多機能です。

② 交流拠点に補助が必要な理由って？

高齢化が進む中、なんでも行政にお任せではなく、人をつなぐを自然と生み出す交流拠点をつくることで、生き生きと暮らせる人が増えたり、介護予防効果が生み出されたり、互いに見守りすることができます。支援が必要になっても、施設やサービスだけでなく、地域の縁側のような第二のお家で「その人らしく、過ごせるという選択が広がります。このような地域の基盤づくりへの予算化は、行政や福祉の専門家に全てお任せの福祉行政と比較して、財政効果は大変高く、交流拠点への補助は妥当であり、今の時代にこそ必要な施策となっております。

次の4年間で実現したい政策

① だれでもが、ごちゃ混ぜで利用できる、常設の共生型交流拠点への補助制度の創設

子どもや高齢者向けの支援策は実現できたものの、だれもが集える共生型の交流拠点については、議会で提案しても何年もの間、なかなか良い答弁が得られませんでした。そこで、立教大学大学院で、共生型交流拠点の効果や補助の妥当性について研究。その有効性を確認することができました。めげずに何度も議会で様々な角度から質問を重ねた結果、共生型交流拠点の意義が理解され始め検討が進みそうです。今後、政策実現に向け、研究の成果を活かしていきます。

② 常設の交流拠点に「まちの相談役」を配置

「居場所+まちの相談役」をセットで増やすことで「まち全体がサービス付き多世代住宅」となることを現場で実感。一人ひとりの課題に寄り添ったサポートができるよう実現に向け動きます。

政策実現できたこと

① こども食堂への支援実現(2018年4月～)

こどもに無料もしくは低額で食事を提供する「こども食堂」に、月2万円(年間24万円)の補助実施が開始されました。こども食堂等のこどもの居場所は、区内24ヶ所にまで広がっています。

② 高齢者の通いの場(住民主体の通所型サービスB)の制度化を提案し実現(2017年1月～)

今まで、地域の居場所支援は、社会福祉協議会の福祉の森サロン助成金(年間2万円)のみでした。2014年から、高齢者の通いの場の支援制度の必要性を訴え、議会で質問を重ね、2017年1月に実現。その結果、月2～5万円の補助額(年最大60万円)を介護予防に資する居場所に補助できるようになりました。2017年度は、区内17団体が事業を行ない15団体が補助金を活用し、これに伴う要支援者等の同サービスの利用者は3,228人、全利用者は11,152人となりました。

補助対象経費が限定され、使いにくく課題がありましたが、「来年度」以降はそのまま。来年度、大きく改善が進む予定です。また、常設の居場所の支援策としては、不十分なので、改善提案していきます。

4 みどり・自然いっぱい。公園や空き家活用で魅力UP

- 土とみどりいっぱいのまちづくり。湧き水の保全。
 - 雨水浸透槽の設置促進
 - 子どもたちが思いっきり遊べる公園や空き地の拡充を。
 - 木登り穴掘り火おこしができるプレーパーク
 - 居場所併設型の公園で、ママやパパがお茶しながら子どもの遊びを見守れる&多世代交流の場に。
 - 空き家・空室を利活用したい人をマッチング。シェアハウスやひとり親のサポート付きハウス、シェアオフィス、居場所づくりなどの取り組みを促進。
- ボール遊びができるネット付き広場の拡充を提案。一部実現。
- 居場所併設の公園の整備を提案してきました。一部、パークマネジメントガイドラインに反映されました。
- 住宅対策審議会で、空き家・空室を利活用した「事例づくり」の重要性を指摘。また、「空き家フロンティア窓口」について検討が進んでいます。さらに、住宅確保要配慮者向けの家賃補助や生活支援付き空き家利活用策(改正住宅セーフティネット法)についても提案しました。

5 社会的企業・市民活動の推進と住民主体のまちづくり

- 区民の活動の場である集会所の価値を見直し、残そう!
 - 「学ぶ機会」のあるまち。子ども、障がい、老後のことから、環境や地球規模のことで、SDGsに目を向けよう。
 - いたばし総合ボランティアセンターの今後の方向性を、住民・NPOが主体となって決めよう! 市民活動の推進。
 - 小学校区にミニボラセン。
 - ボランティア・NPOと行政の対等な協働関係の促進を。
 - 地域に深く根ざすスケールアップ型NPOと課題解決型のスケールアウト型NPOの連携を。
 - 地域活動の充実から、政策提案、制度化まで活動をサポートします。
 - まちづくりの外部委託化の是正を進めます。
- 2011年73箇所あった集会所。2018年には59箇所に。住民から沢山の陳情が、私自身、委員会や一般質問で何度も集会所の必要性を訴え反対してきました。現状、廃止が延期になることはあっても、廃止を取りやめるまでにはなっていないのが課題です。
- ミニ・ボランティアセンターを小学校区に設置することについては、現区長は消極的。さらに、住民・NPOの自立的運営を目指すとしたボランティア基本構想を無視し、社会福祉協議会が来年度から事務局の運営を担う事に。行政運営の根本姿勢が問われる問題として厳しく追及してきました。(2015年11月一般質問～2019年3月予算討論まで7回指摘)

8 地域で国際交流 グローカル人材育成へ

- 地域に住む外国人を主人公にした国際交流の促進。
 - 東京都の英語村を活用し、すべての子どもたちに1日留学体験を。
 - 案内表示の多言語化
 - 日本在住の外国人へ社会保障制度等、母国語での説明を。
 - 住まいや仕事における外国人差別解消を。
 - 民間外国人支援団体との適切な協働促進
 - 福祉施設や医療機関等を利用する外国人、働く外国人への日本語支援
- 「検討する」との答弁のため、今後具体的提案につなげます。(2018年11月一般質問)
- すべての子どもたちが参加できるように質問。2018年度は2校で実施。今後、予算化できるように提案していきます。(2018年11月一般質問)
- 外国人の人権について質問し、支援体制の拡充を求めました。(2018年11月一般質問)



7 職住接近の促進と関係人口の増加

- 板橋で学んでいる学生や潜在的に働きたいと考えている人と、雇用了い商店・工場・企業等とのマッチングを進めます。働く場と住まいが近いとプライベートも充実。人材確保策にもつながります。
- 住んではいないけれど、板橋に関心を持ち、何らかの形でつながりつづける「関係人口」を増加させ、板橋と地方・海外をつなぎながら、新たな可能性を広げます。

6 「仲間いっぱい」から地域経済活性化と防災力の向上へ

- 「地域なんて、寝に帰るだけ」から「地域に仲間がいっぱいで、楽しく魅力的なまちに」。地域で食べたり飲んだり遊んだりすることが増えれば地域経済は活性化。さらに、どこに誰が住んでいるか見える化が進むことで防災力向上へ。
- 東日本大震災から8年。被災者の今(住宅問題や就労環境・進学や学校のこと等)に寄り添います
- スマートシティの促進。原発から自然エネルギーへの転換。

一人ひとりの声から板橋の未来をつくる

現状の板橋区の施策は、トップダウンの供給者主導(行政主導)になりがちです。その結果、支援策や制度はつくったものの、狭間に落ちてしまったり、支援が届かなかったりする人たちがいます。

私は、議員になり8年間、居場所やまちで出会った一人ひとりから聞いた、日々の暮らしの中での困りごとやアイデアから制度を変え、政策を提案・実現してきました。私の区政への取り組み姿勢としても、板橋区政のあるべき姿としても、「一人ひとりの声から政治を動かす、板橋の未来をつくること」が重要と考えています。そして、一人ひとりに寄り添うことで、だれもがおりのまま、堂々と生きられるまちを目指します。

また、まちづくりの外部委託化が進んでいます。地域の人や団体を活かさなければ、どこも「なんとなくステキなまち」にしかありません。地域の人たちの声や、小さな活動に目を向けてこそ、個性豊かで、心温まる、魅力的なまちになるのではないのでしょうか。

関心のない人たちが、関心を持てるまちに、まちのことを考え行動する人たちの気持ちは大切にされるまちに、力を注いでいきます。

「一人ひとりの声から描く板橋の未来」を実現していくために、次の4年は、育児や介護、まちづくり、市民活動など、それぞれについて関心のある人で構成するラボを立ち上げ、政策実現に取り組んでいきます。そして、このラボから、無所属で議員に立候補する人を増やしていき、新たな風を板橋に吹かせていきます。

応援 メッセージ



佐々木 令三さん
非営利活動団体役員

「常設の居場所間でネットワークしたいのですが…」と井上さんからの一報が関わりの始まりでアツという間に6年が経過しましたね!!「地域に一番近い議員こそ緩やかな活動(非営利)を実践すべし」が私の持論ですから、正に絵に描いた通りの人物です。樹木職人が好んで口にするこぼに「社会の真の価値は、そのなかのもっとも弱いメンバーをいかに守るかによって決まる」とあります。この8年、一貫して弱者に向けてきた熱い思いを、引き続き実践の場で高めて続けてもらいたい、それがあなたの使命です。お互い共感を大切に活動しましょう。区内在住



藤井 純子さん
まちの保健室代表

私は、ハンディキャップがある子もいない子も、またその家族も、ほんわかと温かなような仲間づくりと安心して過ごせる居場所づくりをしています。子ども若者、高齢者、障がい者、外国にルーツがある方、誰もがホッとできる[共生型の居場所]交流拠点が小学校区にできたとしたら…。こんなあたかいは他にはないのでは? 多様な人たちの生活の様子や声をしっかりと聞いてくれる温子さんの人柄も気さくで魅力です。(ごちゃ混ぜが豊かで幸せ🍀)と思える板橋をつくっていくのに欠かせない人です。区内在住



山田 アキ菜さん
ここにこ食堂代表

私が携わっている子育て支援活動である「ここにこ食堂」にご参加くださった事が井上さんと私の出会いでした。私が食堂を立ち上げた時、井上さんが地域の人たちがつながる居場所作りの先駆者であることを多方面の方から伺っておりました。政治という難しい分野でご活躍されていますが、朗らかで笑顔の絶えない女性です。しかし、地域交流の居場所作りの話で意見交換する際は一転、目がキリッとされ、この街を良くしたいんだという熱意が伝わってきました。井上さんの様な女性が板橋に必要です! 区内在住



山口 みつ子さん
公財)市川房枝記念会
女性と政治センター理事長

私と井上さんは孫のような年齢差があります。井上さんが初めて当選されたのは8年前、区議としては最年少だったといえます。井上さんは大言壮語するわけではなく、「無所属」で肅々と議員活動をしてきました。地方議会は「無所属」であることが望ましいと思います。そして何よりも、井上さんは学習・実践家です。今では、井上さんのような活動は高島平地域に留まらず、板橋区全体に広がっています。住民参加こそ民主政治で、そのような選挙で議員を選出することが住民自治で、とかく政治不信が広がっている今こそ、井上温子さんのような人を輩出しなければという強い思いです。



浅川 澄一さん
ジャーナリスト
元・日本経済新聞社編集委員

商売の手助けでなく、生活を支える活動者の井上さん。これからの議員のモデルでしょう。日々の暮らしの中で、住民の心強い味方です。6年前に開設した「コミュニティ・スペース」の「地域リビング・プラスワン」は住民たちの憩いの場であり、格好の居場所として定着しています。その賑やかな光景は、心を浮き立たせてくれます。素晴らしい「場」です。前を通るたびに「同じような居場所が板橋区内にもっと広がればいいの」と思っています。人一倍のバイタリティ。ますます磨きをかけてください。地域活動の先駆者として、拍手、拍手です。区内在住



亀井 善太郎さん
立教大学大学院特任教授
21世紀社会デザイン研究科

井上さんは、この3月まで立教大学大学院に在籍し、僕が研究指導していた教員です。彼女は、困りごとや悩みを抱えた人の立場に、常に立ち、物事を考え、活動する人です。それは、実践者として、政治家として、そして、研究者としても決してふれません。多くの政策が、行政や供給者の視点から設計されているため、多くの生活者にとって、使い勝手が悪く、本場の解決策に直結しない現状があります。これを変えるため、井上さんが政治の場に必要です。これを考えるため、井上さんにお力添えください。



稲葉 剛さん
立教大学大学院特任准教授
一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事

「目の前にいる人に手を差し伸べる」と「地域の中にさまざまな人が支えあえる場をつくること」「支えあいを可能にする仕組みを考え、社会に提案していくこと」これからの社会をつくっていくため、この3つのアクションはいずれも欠かせませんが、同時並行で進めていくのは至難の業です。そういう困難な道をあえて選びながら、井上温子さんはあくまで自然体で思索と実践を積み重ねてこられました。上からのお仕着せではなく、ボトムアップで地域共生社会をつくっていく。井上温子さんを応援しています。



坂川 亜由未さん
あゆちゃんち主宰

井上さんとは地域リビングで出会いました。「ここでボランティアさせてもらえませんか?」とお願いしたところ「ぜひぜひ!」との返答が。当時、どこに行っても、断られてばかりでしたが、地域リビングでボランティアをしてから、活動の場が広がりました。現在は「重度障がい者が地域で自立して暮らす」という目標に向かい、徳丸に居場所をつくり実践中です。未知への挑戦ですが、井上さんは、いつも新たな発想を受け入れてくれるので、これからも共に歩んでくれると期待しています。区内在住



吉田 真由美さん
NPO法人ASIAN PEOPLE'S FRIENDSHIP SOCIETY代表理事

私たちAPFSは、外国人住民に対する相談活動(解決型相談)を行っています。設立して32年目となりました。井上温子さんは、私たちが支援する在住外国人の問題にも関心をお持ちで、活動に参加し、当事者の話にも直接耳を傾けてくれます。地域の女性や子ども、お年寄りや外国人など、声を上げることが難しい人たちの代弁者となっている井上温子さんを応援しています!



ハッサンさん
ホテルのシェフ

日本に来て、20年以上経ちました。ホテルで朝食の仕事をしていますが、井上さんが運営する地域リビングのこども食堂で、毎月ボランティアでピーフシチューを作っています。たまに、みんなでパーベキューをしたり、いろいろなイベントをしたりしていて、地域に仲間がいっぱい増えました。井上さんは、いつも地域では笑顔ですが、区役所で仕事をしている時はキリッ意見を述べていて凄いです。みんなの意見をちゃんと聞いてくれるし、考え方も行動にも共感しています。頑張れ〜! 区内在住



廣道 純さん
パラリンピック
車いす800m銀メダリスト

パングラデシュのストリートチルドレンの支援活動で友人を通じて知った井上温子さん。聞けば板橋区でこども食堂をしたり、地域の方に寄り添う活動をされてるとか。会えば必ず包み込むような笑顔で迎えてくれ、いろいろな新しい事を吸収しようとする姿には頭が下がります。いつも、地域の方々の事を真剣に考え、一人ひとりのために活動する姿に感銘を受けました。私はそんな井上温子さんを心から応援しています。



岩田 ひろゆきさん
地域リビング ボランティア

板橋区で開催している若年性認知症のイベントで井上さんと出会いました。果物を切っている私を見て、地域リビングのボランティアに誘われました。認知症といっても、100人100通り。月に何度か、メニューを考えごはん作りをしています。地域に貢献でき嬉しいです。井上さんは、裏表なく、障がいのある方や高齢者や子どもに分け隔てなく対応する人です。板橋区がもっと良いまちになるよう議会で様々な提案をしたり、区内外で講演をしたりしています。是非、応援をよろしく願い申し上げます。区内在住



横山 博康さん
音楽家 ロカビリーシンガー

井上さんが代表で運営しているコミュニティ・スペースで、月に数回演奏をさせてもらっています。演奏会には、子どもから高齢の方までたくさんの人たちが楽しみに来てくれて、友だちにもなれました。この様なスペースを、今後も意欲的に増やそうとしている井上さんを心より応援します。どこの政党にも属さず、しがらみのない活動をしているということで、私を含め周りの方々の信頼の厚さも感じます。表向きはさらっとした感じの人ですが、実は、熱い心を持っている方だと、常日頃感じています。3期目もがんばってくださいね! 区内在住



高橋 美佐子さん(左)
白石 光代さん(右)
地域リビングボランティア

元気な高齢者が活動する場所として、集会所や空き教室はとても大切です。高齢者がいつまでもその人らしく、思い思いの活動をしながら、健康と長寿を堅持していくことができるような環境作りが求められます。井上さんは、とても勉強家で実践力があります。また、お子さん・高齢者・弱者に対しての思いには、底知れないものがあります。そんな井上さんなら、豊富な知識と実行力で明るい区にしてくれると思います。次期もがんばってください。区内在住



若林 麻衣さん
政策スタッフ

格差はますます広がっています。社会的弱者といわれる人たちは生きづらさを感じています。所得・人種・宗教・国籍・ジェンダーの違い、疾患などによって、人権を傷つけられたり、社会的に不利な立場に置かれたりして苦しむ人たちがいます。井上さん突き動かすのは、そのような困難の中にある一人ひとりの小さな「声」です。社会の中でかき消されてしまいそうな声もしっかりと受け止め、区政に届け、問題解決に向け走り回った8年間があります。誰もが伸びやかに自分らしく生きられる社会の実現に向け、井上温子さんにエールをおくります。区内在住

メディア情報 pick up

- 2015年8月 日経新聞に「食卓囲んで街に絆」事例としておかえりごはんが掲載
- 2016年2月 NHK「おはよう日本・関東甲信越」で地域リビングのおうちごはんが紹介
- 2017年8月 松山政司内閣府特命担当大臣(当時)がおかえりごはんを視察
- 9月 Eテレ「オイコノミア」で地域リビングの取り組みを紹介
- 2018年10月 読売新聞に「団地再生~高島平の取り組み~」の事例として掲載

井上温子プロフィール

- 1984年 生まれ34歳 出身地:青梅市
居住地・事務所:高島平 本籍地:板橋区
- 2003年 東京都立北多摩高等学校卒業
(在学中、陸上部にて関東駅伝・国体に出場)
- 2008年 大東文化大学環境創造学部卒業
- 2008年 同大同学部職員として、地域活性化事業を担当
(地域と大学連携によるコミュニティカフェ運営等)
- 2011年 NPO法人ドリームタウンを設立し、代表理事
板橋区議会議員初当選(無所属)
- 2013年 同NPOにて地域リビング プラスワン開設
- 2014年 いたばしコミュニティスペース連絡会立ち上げ
- 2015年 区議会議員2期目当選(無所属)
- 2017年 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 入学
(研究テーマ:地域共生社会の要となる共生型の居場所の効果と普及の可能性)
- 2019年 同大学大学院 修了

政策、語ります。
みなさんの声もお聞かせください。

[日時]
2019年4月11日(木)

[場所]
井上温子事務所
(高島平1-71-8)
19時~21時



立教大学大学院卒業式会場

大学院卒業しました!

板橋区予算に対する総括質問

NPO法人で運営している地域リビングおかえりごはん

井上温子 事務所 〒175-0082 東京都板橋区高島平1-71-8 エトワール西台101
[Tel] 090-5503-2922 [Mail] voice@atsukoinoue.jp [HP&Blog] http://atsukoinoue.jp/